

【補足説明資料】 コラボテクノ株式会社の株式取得（子会社化）完了に関するお知らせ

AIプロダクト開発の完全垂直統合を実現

「構想・DXデザイン・現場実装」を自社グループ内製で完結させる体制へ

2026年5月11日

Hmcomm株式会社

東証グロース市場

証券コード：265A

1 AIプロダクト開発の「更なる強化ピース」を獲得

これまでの戦略的M&Aに続き、新たにエンジニアリング領域（AIプロダクト実装）を内製化。豊富なエンジニアリソースを獲得し、開発スピードを飛躍的に強化します。

2 「構想（コンサルティング）× DXデザイン（人間工学インタフェース）× 現場実装（エンジニアリング）」の完全統合

AI開発のフルスタック体制を自社グループ内で確立し、競争優位性を強化します。

3 FDE (Forward Deployed Engineer)モデルによる新たな価値提供モデルの確立

エンジニアを顧客の業務現場に配置し、課題特定から実装・Hmcomm独自のAIOps（Artificial Intelligence for IT Operations）技術による運用改善までを一気通貫で完結。「プロダクト提供」に留まらない高付加価値・リカーリング収益モデルへの転換を推進します。

01

2025年2月

第1号案件

IPパートナーズ

構想

コンサルティング

02

2025年8月

第2号案件

ファンタラクティブ

デザイン

UI/UX/DXデザイン

03

2026年5月 株式取得完了

第3号案件 ★NEW

コラボテクノ

エンジニアリング

コラボテクノの3つの強み

PM/PL主導の高い
プロジェクト完遂力

要件定義から納品まで一貫した統制を実現。大規模・複雑案件でも品質・納期を維持。

即応性の高い
エンジニアリソース

案件特性に応じた最適なチームを迅速編成。複数案件の同時推進や短期立ち上げに対応。



AI駆動開発への転換力

業務システムへの組み込みから運用設計まで、実践的なAI実装と開発スタイル転換を推進。

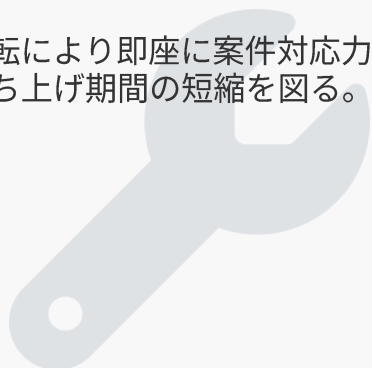
01

0~3ヶ月

開発生産性基盤の早期構築

開発環境の標準化およびAI支援ツールの導入を通じ、買収直後からの開発生産性改善の可視化を目指す。

早期の技術移転により即座に案件対応力を向上させ、立ち上げ期間の短縮を図る。



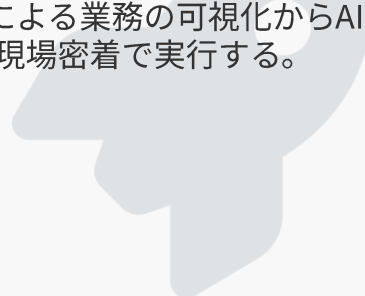
02

3~6ヶ月

FDE体制の構築と実装シナジーの創出

AI BPaaS展開に向けたFDE体制の基盤整備を推進し、顧客現場への実装力を段階的に拡大する方針。

既存プロダクトの機能強化とAIモダナイゼーションを加速させ、Hmcomm独自のAIOps技術による業務の可視化からAI自動化までを現場密着で実行する。



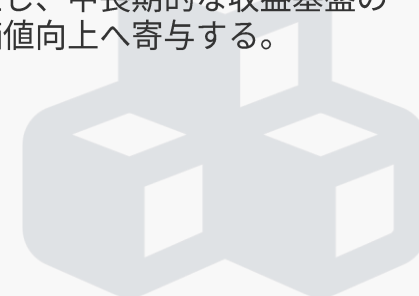
03

6~12ヶ月

FDEモデル本格展開とリカーリング収益の拡大

FDEモデルの本格展開により、自社AIプロダクトの導入スピードを最大化し、ライセンス収入および高付加価値サービスによる継続課金型収益の拡大を目指す。

顧客現場起点のプロダクト開発・横展開モデルを確立し、中長期的な収益基盤の強化と企業価値向上へ寄与する。



戦略

 Q1: 本M&Aで期待されるシナジーは何か。

A1: 構想・デザイン・実装の完全垂直統合に加え、FDEモデルにより顧客現場に密着した実装力を獲得。AI BPaaSの本格展開、AIモダナイゼーションの推進、リカールリング収益の拡大という3つの事業進化を実現する

財務

 Q2: 業績面でどのようなインパクトが見込まれるか。

A2: 売上面では既存プロダクトの機能強化と新規案件化により収益拡大を見込む。利益面では開発プロセス高度化による生産性改善を通じて収益性向上を目指す。

価格

 Q3: 買収価格の妥当性はどう判断したのか。

A3: コラボテクノの技術力、組織力、既存案件の継続性、AI開発への転換可能性を総合評価。当社成長戦略における戦略的価値とシナジー効果を勘案し、妥当な水準と判断した。

実行

 Q4: PMIの実行計画と進捗管理はどうなっているか。

A4: 0-3ヶ月で開発環境標準化、3-6ヶ月でAI開発手法の適用拡大、6-12ヶ月で内製基盤構築と段階的に進める。工程・役割を明確化し、定期的なモニタリングを通じて進捗を管理する。

リスク

 Q5: 統合に伴うリスクをどう管理するのか。

A5: 抽象的な期待ではなく工程・役割・管理項目に落とし込んで段階管理する方針。初期は標準化に注力し、段階的に統合を進めることでリスクの低減を図る。

■ FDE (Forward Deployed Engineer)

エンジニアが顧客の業務現場に常駐し、課題の特定からAI実装・運用定着までを一体で担う、AI時代の新たな価値提供モデル。従来の受託開発やSESとは異なり、プロダクト導入を業務変革レベルまで昇華させるアプローチとして、グローバルの先進AI企業において採用が広がっている。

■ AIOps (Artificial Intelligence for IT Operations)

AIを活用してITシステムの運用監視・障害検知・自動化・最適化を行う技術領域。

当社は業務現場の運用効率化と継続的な改善を実現する独自のアプローチとして展開している。

本資料は、当社の事業内容や業績等に関する情報提供を目的として作成されたものであり、有価証券の取得、売却等の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する判断は、ご自身の責任にて行っていただきますようお願いいたします。

本資料には、いわゆる「将来の見通し(forward-looking statements)」が含まれる場合があります。これらは、現在入手可能な情報および合理的と判断される前提に基づいて作成されたものであり、不確実性を含んでおります。実際の業績等は、記載された見通しとは大きく異なる可能性があります。

なお、当社は将来の見通しに関する記述について、新たな情報や将来の事象に基づいてこれを更新または修正する義務を負うものではありません。